

令和7年度小松市立荒屋小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導・教育相談	<生徒指導の4つの視点を生かした学校づくりを通して、「自己指導能力」を育む>		
	・生活目標と道徳、特別活動等で系統的な指導をする。 ・生徒指導の4つの視点を教職員が共通理解、共通実践を行えるよう、チェック表で毎月ふり返る。 どの項目も80%以上になるよう、意識できるよう伝達する。 ・生活目標や道徳で学んだ価値のよさを実感できるようにするために、諸問題が起きた時に、生活目標に関連させて指導するようにする。		
特別支援教育	<児童の生活の様子や学習状況等の情報交換と個に応じた適切な支援>		
	・気づき票により支援が必要な児童を把握し、校内委員会で支援の仕方を協議し、共通理解をする。 ・学習支援が必要な児童を把握し、特別支援教育支援員や通級教室と協力し、可能な限り必要な支援が行き届くようにする。 ・情報交流を密にし、必要な場合は校内委員会を開催したり専門相談につなげたりする。		
道徳教育	<道徳性の涵養>		
	・学校重点指導内容をA主として自分自身に関すること「希望と勇気、努力と強い意志」に設定する。日常的に学校生活の様々な場面でも取り上げて指導する。 ・道徳ノートを定期的に持ち帰り、保護者と児童が道徳の内容について共に考える機会を設定する。		
読書教育	<読書の質的な向上>		
	・図書利用計画を毎月回覧し、授業での活用を呼び掛け、読書の質や量の向上を図る。 ・図書委員会を中心に、「読書祭り」や「家庭読書」等、休み時間や家庭でも読書に親しむことができるような機会を設定する。 ・子ども新聞やそれに関連した情報を掲示することで、社会情勢に触れ、新聞に親しむ機会を設定する。		
キャリア教育	<学校行事、学習活動と関連したキャリア教育の推進>		
	・学校行事、総合的な学習の時間、生活科、特別活動等を軸として年間計画に沿って実施する。 ・行事や取組について、個々にめあてをもたせ、活動後にめあてに対する振り返りを確実にに行い、次に生かすことができるようにする。 ・児童の目指す姿をもとに、体験活動や探究的な学習を計画的に設定する。		
保健健康教育	<自ら考え、健康で安全な行動をとろうとする態度の育成>		
	・子どもたちの実態を踏まえた内容を学校保健委員会のテーマに設定し、児童自身が自分の健康について考え、改善していけるように活動を進めていく。 ・委員会活動で（学校の実態を踏まえ）、児童主体で必要な活動を提案し、実施していく。		
情報教育	<児童・教師がICTを活用する力の育成>		
	・自ら学習計画を立てたり思考を積み上げたり、互いの考えを交流したりする場面でのICTの活用をさらに積み重ねる。 ・リーディングDXスクール事業を活用し、教師のICT活用指導能力を高める。		
家庭・地域社会との連携	<家庭・地域とともに進める学校づくり>		
	・「子どもが主役の学校」づくりに向け、保護者と情報共有・連携を密にしながら取組を進めていく。 ・地域の健全育成組織やボランティアと連携しながら、子どもの主体的な学習・活動に生かす。		

学校関係者評価	
---------	--